

厚生問題

**問** 子宮頸がんワクチン予防接種への公費助成は

**答** 住民の意見を積極的に取り入れ、検討したい



篠崎久美子議員

【子宮頸がん

ワクチンについて】

**問** 子宮頸がんワクチン  
予防接種への公費助成

は。

子宮頸がんは、近年若い方の発症が増加していて、毎年約3500人が命を落としています。ワクチン接種で予防できる唯一のがん。接種は半年間に3回必要で、費用は1回1万5千円前後で、3回で約5万円前後と高額な個人負担となります。接種費用への公費補助の考えは。

**村長**

このがんの増加傾向から、既に取り組みを始めている自治体を参考にし



健康への一歩は健診から 7月13日

て、住民の意見を積極的に取り入れて検討を重ねたい。

**問** 検討するのはいつ頃か。

**村長** できるだけ速やかに。当然、来年度の予算編成の中に検討材料としてあげていく。

【地域情報通信基盤整備事業について】

**問** 自主放送番組の開始時期はいつ頃か。具体的内容と経費は。双方向通信サービスの利用の可能性と具体的内容と時期は。

**村長** 自主放送は、指定管理者との調整が必要で、整い次第でできるだけ早い時期に番組提供したい。経費は、村から年間制作委託費の支出と考えているが、指定管理者の提案で変わるところもあり明示できない。双方向通信サービスは、システムの初期投資が必要なため、今後、総合的に検討していく。

**問** ※IP告知システム利用について、当初の説明よりも後退しているのは。

**村長** それはない。財政状況が許せば、すぐにも行いたい。当初は行う考えだったが、政府の緊急経済対策ではIP告知は対象外事業なので分けざるを得なかった。

**問** 【観光局について】村支出の予算が増えた、その使途を村民に明示すべきでは。観光局への不満は、なぜ出てくると考えるか。また、構成する会員との協働の図り方は。村長公約の観光局の見直しの結果は、どのように考えているか。

**村長** 引き続き、体制の見直しは図っていきたい。なし崩し的に村の支出が増えるのでは。宣伝投資効果の目標の設定は。予算書に対応した決算書を示すよう指示をした。支出の増額はないように、自主事業財源確保を考えて行くべきだとしている。

**問** ※IP告知システムとは…IP告知システムとは、双方向通信システムのこと、災害や福祉への活用が期待される。

**村長** 利用について、当初の説明よりも後退しているのは。

【観光局について】

村支出の予算が増えた、その使途を村民に明示すべきでは。観光局への不満は、なぜ出てくると考えるか。また、構成する会員との協働の図り方は。村長公約の観光局の見直しの結果は、どのように考えているか。